



令和5年11月29日(水) 名古屋市立八事小学校での出前講義
「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」
「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」(共催：特定非営利活動法人医
薬品適正使用推進機構(NPO J-DO)、Eプロ)

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすりの適正使用」や「乱用薬物の危険性」を知ってもらい授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(NPO J-DO)の協力の下に行っています。名城大学 Enjoy Learning プロジェクト(通称：Eプロ)の活動として今年度6回目になります。

名古屋市立八事小学校(後藤健之校長)の6年生主任 飯沼健一先生のご尽力により、令和5年11月29日(水)、名古屋市立八事小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を下記の内容にて開催しました。当日は、6年生の児童59名が講義や体験・観察実験から「くすり」と「乱用薬物」について学び、「手を濡らしてからカプセルを触るとベタベタする!」「うがいぐすりにすばい粉を入れると水みたいに透明になった!」と大好評でした。

名古屋市立八事小学校における「くすり教室」

日時：令和5年11月29日(水) 11時00分~11時55分

場所：名古屋市立八事小学校 体育館

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

「くすり」をどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるかについての講義をQ&A方式の児童参加型で行いました。学部5年の加藤朱莉がスライドを使用して分かりやすく説明しました。児童は問い掛けに対して元気よく挙手して積極的に答えてくれました。細菌・ウイルス感染に対する適切な手洗いやマスク着装に加えて、目薬の正しい使い方や保管場所についてもQ&A方式で講義を行いました。

・「体験実験」

児童は10グループ(1グループ5~6名)に分かれ、学部5年の加藤朱莉がスライドを使用して、実験する目的を説明しながら体験実験を行いました。体験実験では、より理解できるように名城大学薬学部 野田幸裕教授(NPO J-DO 副理事長)、間宮隆吉准教授(NPO J-DO 理事)、薬学生(Eプロ・5年生5名、薬品作用学研究室5年生5名)が補助しました。

制作：名城大学薬学部病態解析学 I
(加藤朱莉、野田幸裕)
薬品作用学(間宮隆吉)
監修：NPO J-DO



<実験項目>

実験 1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験 2：水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？

実験 3：「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの？

実験 4：「うがいぐすり」でうがいた後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

名古屋市立八事小学校における授業

「乱用薬物には絶対、手を出さない！」

日時：令和 5 年 11 月 29 日（水） 11 時 55 分～12 時 20 分

場所：名古屋市八事小学校 体育館

内容

- ・「乱用薬物には絶対、手を出さない！」：講義と観察実験

どのような薬（ドラッグ）が乱用されているか、身近にある乱用されやすい薬物の害とは、なぜ害があると分かっているにもかかわらず薬物を乱用するのかについて、野田幸裕教授がスライドを使用して分かりやすく説明しました。講義では、「タバコによって成長はどうになってしまうのだろう？」について、タバコを含む水で植物を育てると成長が遅くなるということをハツカダイコンの連続写真を用いて示しました。「お酒を飲むと脳の細胞や肝臓はどうになってしまうのだろう？」「シンナーを吸うと体はどうになってしまうのだろう？」については各グループにおいて薬学生による観察実験を行いました。

児童からは「タバコやお酒を子供が使用してはいけないこと、乱用してはいけないことがわかったよ！」という感想や、「発泡スチロール（ヒトの細胞）がシンナーを入れると溶けちゃった！」「卵の白身（ヒトの細胞）にエタノール（お酒）をかけると白いもやもやがでてきた！」という驚きの声が多く上がりました。タバコやお酒、ドラッグが体にどのような影響を与えてしまうのか、どのように乱用薬物から自分の身を守れば良いのかということ、講義や観察実験を通して学ぶことができました。

